

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、三方原圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和4年10月20日（木）10時から11時30分まで
参加者	委員：14人（欠席者7人） 事務局：2人 その他：13人（高齢者福祉課：1人、北区長寿保険課：1人、地域包括支援センター三方原：6人、市社協地域支援課：1人、市社協北地区センター：2人、市社協浜松地区センター：2人）
場所	浜松市みをつくし文化センター 大研修室
内容	<p>1. 挨拶 協議体会長</p> <p>2. 自己紹介 新任3人紹介（浜松地区センターSC2名含む）</p> <p>3. 協議内容</p> <p>担い手の確保につながる持続可能な地域づくりを目指して ⇒ 圏域のボランティア人材バンク</p> <p>① 第1回会議の振り返り *R4.第1回協議体会議議事録参照</p> <p>② 企業への働きかけ 3企業へ訪問（会長より報告）</p> <p>北区エリアでCSRに取り組んでいる企業へ、定年以降、人材バンクにボランティア登録をしてほしいという狙いを持って訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/7(金) 小笠原マル昇株式会社 総合建設業で従業員27名。80歳まで働ける。人材不足。一人親方で個人任せ。仕事場へ直行直帰。ボランティアの話は難しい。 ・10/11(火) 杉山メディアサポート株式会社 丸塚営業本部 従業員120名。印刷をコアに多様化。ユニバーサルデザイン経済産業大臣賞受賞。70歳まで働ける。社員研修なし。技術的な仕事で時間がない。募集は難しい。 ・10/19(水) 浜松ホトニクス株式会社 都田製作所 従業員150名。転勤なし。社員研修で安全運転の講習等実施。CSRとして新都田4公園の清掃活動を自主的に実施。保健師常勤。認知症や介護保険の講座の詳細を求められた。時間帯は仕事後の30分位ならできそうな感じ。 従業員はそれぞれの地区で色んな形で地域に貢献している。 <p>*浜松地域イノベーション推進機構総務企画部へ企業向け出前講座チラシと申込書を送付した。</p> <p>③ グループワーク *三方原、都田、新都田グループで話し合う</p> <p>テーマ/企業OBの方に地域活動への参加をうながすにはどうしたらよいか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職前、退職後アプローチについて経験の共有と工夫 ・働きながら社会参画する生き方 ・やる気を起こす学習内容の工夫 <p>*会長より話し合いに向けて一言</p> <p>定年前の方、定年後地元で自由がある方を如何にしてボランティアの方へ誘致していくか。時代の変化に伴い、高齢化・核家族化が進み、高齢者夫婦や一人暮らし者が増えている。また、健康寿命が延び、どの地域でも高齢者が高齢者を看て</p>

	<p>いる。50代で子育ても終え、地域で何かやれることがあればやりたいと思う方がいる。地区社協だより等で地域の活動などをしっかり告知する。</p> <p>例) 人を集めるに対しては、事業主トップをある程度説得させる。会社内で飲み友達を勧誘する。横のつながりを促進する。市社協で65歳前の人を対象に「社会福祉とは」「ボランティア活動とは」について学ぶ機会を作る。65歳になると、介護保険証と一緒に「ささえあいポイント事業」のチラシが郵送される。浜松市と商工会議所と連携して、定年間際の方を対象に「ささえあいポイント事業」の講演をしてほしい。次の担い手に繋がると思う。特技や趣味を沢山持っている。それを地元地域の方に活かしてもらいたい。</p> <p>④ グループ発表 発表者／包括職員</p> <p>《発表内容まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に人材が埋まっていて、その中から探し出すことに課題を感じている。中には声を挙げてくれる方がいて、そういう方々を大切にしている。 ・地域活動の啓発も、全戸配布や直接訪問など、周知を続けていくことで繋がりができていく。すぐに効果はでないけど、手間暇かけて続けていくことが大切。 ・講座みたいなものを開いて広げていくのも一つの手。 ・冒頭で集合講座をした後、地域向けの分割講座として企業向け個人向けでより詳細な講座を開いた方がいい。 ・待っているだけでは誰も参画しないので、呼び込むような活動を積極的に行う。 ・興味を持っている方が活躍できる場や相談先などきっかけづくりが大事。 ・新しい価値観や風土を作っていくことが大事。 ・地域の方の意見を吸い上げる活動とか、行政から「社会的にメリットがあるよ」と告知することで参加しやすくなる。 <p>4. 次回の日程（案）について</p> <p>令和5年2月20日（月）10:00～ みをつくし文化センター *事前打合せ会；1月20日（金）10:00～市社協北地区センター（正副会長）</p> <p>5. その他</p> <p>“通いの場”でココロとカラダの健康づくり（厚生労働省） 担い手確保には、情報の伝達・取得が大事。携帯でQRコードからも視聴できる。 参考）定年本が色々あり読まれている。</p> <p>6. 閉会の言葉 生活支援体制づくり協議体 K副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動など色んな方法（SNSや紙媒体等）を使い、地域住民へ配信していく。子どもや若い人たちが福祉に興味を持ってもらえるような講座を企画し、繋がりを図る。 ・企業訪問は、CSRにとらわれず、中堅レベル以上の企業で、研修する部門がある所へ働きかけていく。関係機関で進捗状況等の共有化を図る。